

8 部品交換

<ロープ式の場合>

(1)下記の部品が廃棄基準にあたる場合

部品	交換部品
胴ベルト/バックル	胴ベルトを交換 ※当社製品の胴ベルトもしくは作業ベルト(別売品)を取り付ける
D環/フック/ロープ	ランヤードを交換

(2)補助ベルト・環止め・ロープ収納袋・休止フック掛けは単品のみ交換が可能

<交換の方法>

ランヤードを胴ベルトから取りはずし、部品を交換した後、ランヤードを胴ベルトに取り付ける。

<巻取式の場合>

(1)下記の部品が廃棄基準にあたる場合

部品	交換部品
胴ベルト/バックル	胴ベルトを交換 ※当社製品の胴ベルトもしくは作業ベルト(別売品)を取り付ける
D環/環止め	D環もしくは環止めの部品交換
接続環※巻取器一体/巻取器/ショックアブソーバ/ストラップ/フック	ランヤードを交換

(2)補助ベルト・環止め・フック収納袋・休止フック掛けは単品のみ交換が可能

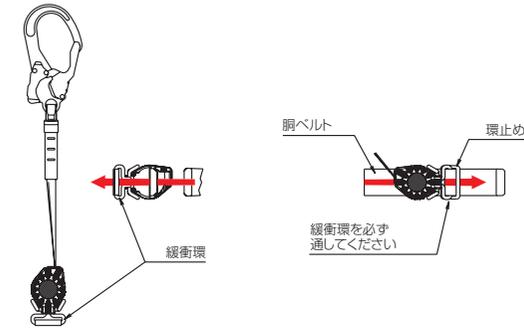
<交換の方法>

ランヤードを胴ベルトから取りはずし、部品を交換した後、ランヤードを胴ベルトに取り付ける。

警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

- 交換の目安に従って部品交換を行う。
- 上記以外の部品交換、その他改造・修理をしてはならない。
- 胴ベルトには、U字つりができるように別のD環やランヤードを追加して取付けてはならない。
- 製造元以外で胴ベルト・ストラップの縫製をしない。
- 製造元以外でロープのさつま編み込みをしない。

<ランヤード(巻取式)取付例>(図は一例を示す)



注意 安全にお使いいただくためにお守りください

- 交換する部品は、当社の同一形式のものを使用する。

使用開始年月	年 月
部品取替年月	年 月
氏名	血液型
管理No.	型

(使用開始年月ラベル)

9 交換の目安

- 使い方によって異なるが、交換の目安としてはランヤードは2年、それ以外のものについては3年くらいをめどとする。
- 点検・廃棄の内容に従って点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで、新品と取り替える。
※廃棄方法については各自治体にお問い合わせください。
- 胴ベルトの裏側に取り付けられた使用開始年月ラベルに、使用を開始した年月を油性のペン等で必ず記入する。
ランヤード等を取り替えた時も、年月を必ず記入する。

10 各部の強さ

項目	墜落制止用器具の規格	試験結果
胴・腰ベルト	15kN以上	23kN以上
環鎖・スリング	11.5kN以上	15kN以上
胴ベルト用バックル	振動試験により、不意の外れや25mm以上の滑りなきこと	同等なし
ショックアブソーバ(強度)	1.5kNにて2分間機能せず15kN以上	1.5kNにて2分間機能せず15kN以上
ショックアブソーバ(衝撃吸収性タイプ) ^{※1}	□試験落下距離にて落下(1.8m~4m落下) ・墜落制止荷重は4kN以上 ・ショックアブソーバの永久伸びは、1.2m以下	平均3.6kN以下 永久伸び1m以下
緩衝環付、ロック装置付き巻取りランヤード	□ロック静的強度 6kN以上 □ロック動的強度 ロックが機能すること □1/2引き出しにて落下 ・4kN以下	6.5kN以上 4kN以下

※1:「第一種」とは自由落下距離1.8mでの衝撃荷重が4.0kN以下の緩衝機能を備えたショックアブソーバ(をいい、「第一種」ショックアブソーバ(を備えたランヤードを「タイプ1」という。
※2:試験落下距離とはランヤード長に追加落下距離(D環の高さからフック取付高さをついた距離)を加えた距離を指す。

項目	墜落制止用器具の規格	試験結果
ロック装置付き巻取式ランヤード(タイプ) ^{※1}	□ロック静的強度 6kN以上 □ロック動的強度 ロックが機能すること □全引出し強度 11.5kN以上	7kN以上 11.5kN以上 11.5kN以上
ロープ、ストラップ(帯ロープ)タイプ) ^{※1}	15kN以上	15kN以上
フック タイプ) ^{※1}	□全方向強度 11.5kN以上 □外れ止め緩衝荷重 1kN φ3mmが通らないこと	11.5kN以上 φ3mm通過せず
衝撃吸収性(胴ベルト型組み合わせ)	□重さ100kgのトルソーを試験落下距離にて落下 ・トルソーを保持し、各部の著しい破断なき事 ・衝撃吸収率4以下 ・ショックアブソーバの伸び 1.2m以下	破断なし ・衝撃吸収率4以下 ・ショックアブソーバの伸び 1m以下

お客様相談窓口

製品の使用方法等についてご不明の点があれば、お買い上げの販売店、または下記までお問合せください。また、業務用途以外でお使いのお客様が、製品に起因する死亡や、重大な怪我に至る事故にあわれたときは、お手数ですが下記までご連絡ください。

サンコー株式会社 本社 TEL: 06 (6394) 3541 (代表)
FAX: 06 (6395) 0041

発売元	製造元
株式会社 MonotaRO https://www.monotaro.com 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3F TEL 0120-443-509 FAX 0120-289-888	TITAN 株式会社 本社:大阪府大阪市淀川区新高1-14-7 〒532-0033
(この製品は株式会社MonotaROの委託によりサンコー株式会社が生産した墜落制止用器具です)	

2021-x-x,000S

B0028-1

適合規格:厚生労働省 墜落制止用器具の規格
種類:胴ベルト型墜落制止用器具



胴ベルト型墜落制止用器具

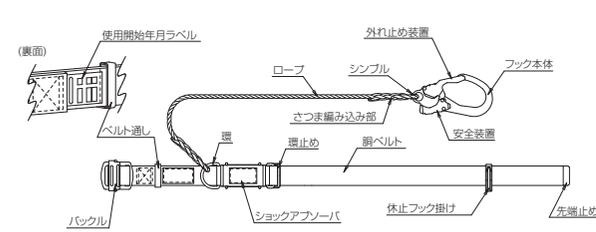
取扱説明書

要保存 必ずお読みください。

この度は、MonotaRO胴ベルト型墜落制止用器具をお買い上げいただきましてありがとうございます。この製品は、建設現場・工場等の高所作業で作業者の墜落を制止するために使用するもので、厚生労働省の「墜落制止用器具の規格」に合わせてサンコー株式会社が製造した胴ベルト型墜落制止用器具です。ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をご理解ください。特に**危険**、**警告**、**注意**の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。あわせてこの取扱説明書は大切に保存していただき、紛失された場合には当社にご請求ください。
※安全ブロック・親綱・ロープチャック・S-スライド等を併用される場合はそれらの製品に添付されている取扱説明書も合わせてお読みください。

1 各部の名称 (図は一例を示す)

《MSB-4型》(ロープ式)



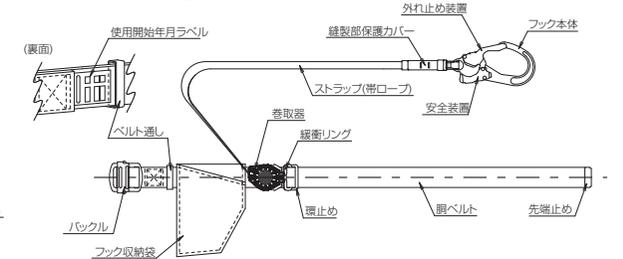
落下距離・ランヤード長一覧

※墜落制止用器具の規格に基づく
※以下の数値は、補助ロープ側でなくメインランヤード側の数値を示す

品名	落下距離 (m)	自由落下距離 (m)	ランヤード長 (m)	使用可能質量 (kg)
胴ベルト用ランヤード(ロープ式)	3.5m	1.8m	1.7m	100kg以下

※1 自由落下距離・落下距離については **使用方法** (2) 参照
※2 使用可能質量=装備品+作業者体重

《MSB-5型》(巻取式)



品名	落下距離 (m)	自由落下距離 (m)	ランヤード長 (m)	使用可能質量 (kg)
胴ベルト用ランヤード(ロック装置付き巻取式)※ストラップ全長引出し時	1.9m	1.3m	1.15m	100kg以下
胴ベルト用ランヤード(ロック装置付き巻取式)※ロック作動時	1.7m	0.9m	0.79m	100kg以下

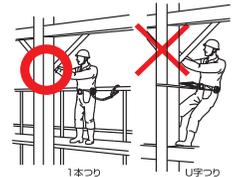
2 使用条件

警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

- 作業者の墜落制止以外の目的で使用しない。
- ショックアブソーバの表示にて使用可能質量(体重+装備品)を確認した上で使用する。
- 補助ベルトのナス環及び胴ベルトの休止フック掛けにランヤードのフック及び外部フック(リトラクタ等)、専用カラビナ等を掛けて、墜落制止の目的で使用しない。

注意 安全にお使いいただくためにお守りください

- この製品は必ず足場のある場所で使用し、U字つりなど体重をかける作業には使用してはならない。体重をかける作業には、ワークポジショニング用器具を使用する。
- ランヤードはショックアブソーバ(又はその機能を有する部品)がない状態では使用しない。
- 補助ロープはフック掛け替え時のみ使用する。
- 通常作業が可能な温度範囲(目安として-10℃~+50℃)で使用する。



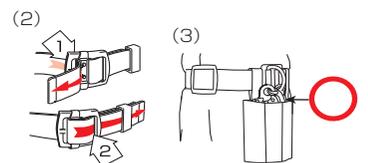
3 使用前点検

- 装着前に取扱説明書をよく読み、正しい使用方法を確認する。
- 装着前に必ず、この取扱説明書の **点検・廃棄** の内容に従って各部に異常がないか点検する。
- 新しい製品を使用する前に、使用開始年月ラベル(**交換の目安** 参照)に必ず記入する。

4 装着方法

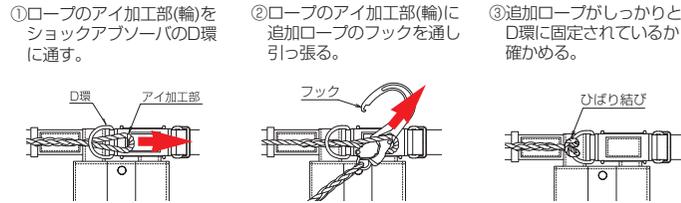
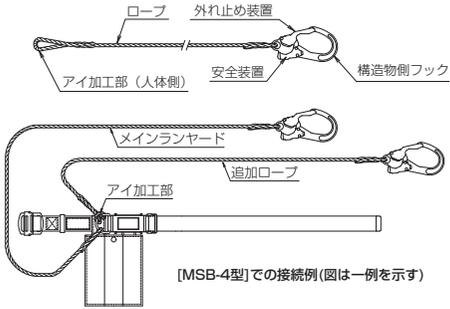
【バックル装着方法】

- 胴ベルトは腰骨のところに装着し、D環の位置が身体の真横かそれより後方に来るようにする。
- バックルに刻印された①②の順に胴ベルトを通し、確実に締める。余った胴ベルトの端はベルト通しに通す。
- フックを取付対象物に掛けていない時は、フックとロープをまとめてロープ収納袋に納めるか、収納袋のないものはロープを肩に廻してフックを休止フック掛けに掛ける等、ロープが垂れ下がって引っ掛からないようにする。



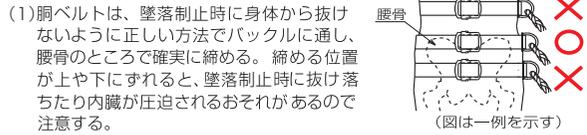
(4)追加ロープ(別売品)の取付方法

【追加ロープ】

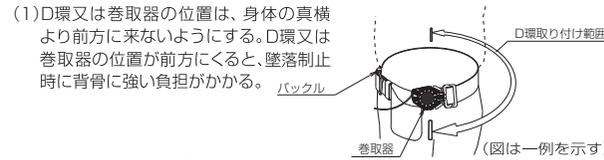


メインランヤードのイラストは説明の都合上省略

警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

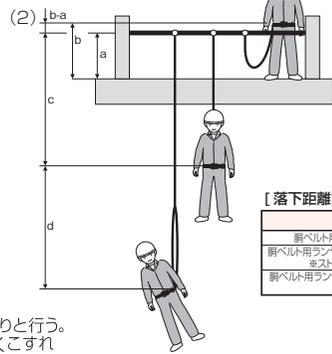


注意 安全にお使いいただくためにお守りください



5 使用方法

- フックの取付対象物は、外れたり抜けたりするおそれなく、墜落制止時の衝撃にも十分耐えられる堅固なものを選ぶ。
- フックの取り付け位置は、接続したD環より出来るだけ高い位置で、万一墜落した場合、構造物や床面に衝突しない箇所を選ぶ。なおランヤードに記載されている落下距離に用いるフックの取付け位置高さやD環高さは右図による。



落下距離とは、
(c:ランヤード長さ)+(b:D環高さ) -
(a:フック取付高さ)+
(d1:ショックアブソーバ伸び)+
(d2:ランヤード・胴ベルト伸び)
※d=d1+d2
※自由落下距離=c+(b-a)

【落下距離説明表】※以下の数値は、補助ロープ側ではなくメインランヤード側の数値を示す

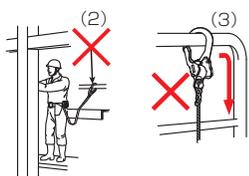
品番	c	b	a	d1	d2
胴ベルト用ランヤード(ロープ式)	1.7m			0.8m	0.85m
胴ベルト用ランヤード(ロック装置付き巻取式) ※スト랩全長引き出し時	1.15m	0.95m	0.85m	0.11m	0.5m
胴ベルト用ランヤード(ロック装置付き巻取式) ※ロック作動時	0.79m			0.05m	0.77m

- ストラップの引き出し・巻き取りは、フック部分を手に持ってゆっくりと行う。このときにストラップがねじれていたり、巻取器のベルト出入口で強くこすれたりすることがないように注意する。
- フックは、安全装置と外れ止め装置を同時に押さえて開き、対象物に掛けて閉じた後、安全装置及び外れ止め装置が確実に閉まっているを確認する。
- フックは、墜落制止時にフック本体がねじれて変形したり、外れ止め装置・安全装置に荷重がかかったりしないように、正しい方法で取付対象物に掛ける。



危険 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、絶対にやめてください

- フックは、抜けたり外れたり、墜落制止時の衝撃で壊れたりする可能性のある構造物に取り付けてはならない。
- ロープやストラップが切断されるおそれがあるので、墜落制止時に鋼材等の鋭い角にロープやストラップが当たらないようにし、やむをえない場合は布等を当て直接触れないようにする。
- 斜めの構造物や逆L字のように墜落時にフックがすれる箇所に掛けないでください。
- ロープを結んだり、くくりつけたりして使用しない。



警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

- 下図のようにフックの掛け方は、墜落制止時に対象物からはずれる危険性があるので、絶対にしてはならない。(下図はすべて誤った掛け方の例)
- フックを腰より下の位置に取り付けてはならない。取付位置が低いと、墜落制止時の衝撃が大きくなる。
- 溶接の火花・強い酸やアルカリ・油・その他高温高熱の物体や化学薬品類が製品にかかったり触れたりしないようにする。
- 金具の衝撃・静電気による火花で爆発・引火する可能性があるため、ガスや粉塵の濃度が高い場所では使用しない。
- 万一の墜落制止時に、振り状態になり構造物に激突する可能性がある箇所にフックを取り付けない。

- クレーンのフック等、移動するものにランヤードのフックを掛けない。
- 直下の床面や物体との距離が短い場合は、墜落制止時に激突しないように十分な位置にフックを掛ける。
- 製品毎に落下距離が異なるので、表示をよく確認してから使用する。
- 巻取式ランヤードは、ストラップが全長引き出された状態での落下距離に注意する。
- ロープ・ストラップは使用時や収納時にねじれないように注意する。
- 巻取式ランヤードは、墜落時にストラップの繰り出しをロックする機能があるので、フックを掛けた状態では、飛び降り・走る等の急な動きはしない。
- 垂直・水平親綱を使用する場合は、1スパン(支持点間)を利用する作業者は1名とする。
- TL環のツールホルダーに墜落制止用器具のロープ・フックを掛けて使用しない。

注意 安全にお使いいただくためにお守りください

- ロープ・ストラップを引きすぎない。
- ロープ・ストラップをねじらない。
- シノー等、工具類はベルトの内側に直接差し込まない。
- 併用する部品は、同一メーカー(当社製品)のものを使用する。
- ベルト・ロープ・ストラップは水分を含むと電気をよく通すので、特に雨の日などは感電に注意する。
- 三つ打ちロープの場合、キンクやほどけが発生し早期に廃棄基準に達する場合があります。燃り方向と逆向きに力を加えたり、ねじれた状態で使用しないよう注意する。



6 保守・保管

- ベルト、ロープ、ストラップの汚れは、ぬるま湯または中性洗剤を使って洗い、陰干しする。
- ベルト、ロープ、ストラップに塗料が付いた場合は、布等でふきとる。溶剤を使ってはならない。
- 金具類が氷などにぬれた場合は、乾いた布でよくふきとった後、さび止めの油をうすく塗る。
- 金具類の可動部は定期的に注油する。ただし、巻取器のストラップ出入口等から内部へ注油してはならない。誤って注油した場合は使用せず廃棄して新しいものと取り替える。また砂や泥が付いている場合はよく掃除して取り除く。
- 製品は、直射日光や火気・放熱体・腐食性物質を避け、屋内の風通しがよく清潔な場所に保管する。
- 子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないように注意する。
- 新品の製品でも、使用せずに長期間保管する場合は、必ず内装箱または袋に入れた状態で、かつ前述の(5)、(6)の内容に特に気を付けて、良好な状態で保管する。

7 点検・廃棄

警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

- 製品は使用前及び定期的に点検し、廃棄基準に該当する部分があれば、廃棄して新しいものと取り替えるか、部品を交換する。その際は必ず、使用開始年月ラベル(目交換の目安参照)に使用開始年月または交換年月を記入する。
- 少なくとも1ヶ月に一度は、下記のチェックリストに従ってより詳細に点検を行う。
- 使用中に製品に異常があれば、ただちに使用を中止し再点検を行う。
- 一度でも大きな衝撃を受けた製品は、外観に変化がなくても廃棄する。
- ストラップの芯糸が露出しているものは必ず廃棄する。

<製品点検チェックリスト>

点検部分	点検項目	廃棄基準	
ベルト	摩擦・擦り切れ	3mm以上あるもの	
	切傷・焼損・溶融	3mm以上あるもの	
	縫い付け部分	ゆるみのあるもの	
	縫糸	切断されているもの/摩擦・擦り切れの激しいもの	
	先端止め	変形・脱落しているもの	
ロープ	薬品・塗料等の付着	薬品が付着し変色したものと/塗料が付着し硬化したものと	
	切傷・焼損・溶融	1リード内にアヤーン以上あるもの	
	摩擦	摩擦して棒状になっているもの	
	キンク	キンク(よじれてコブ状になること)しているもの	
	ほどけ	ロープがほどけているもの	
ダイナミックロープ	ロープコース(シングル)	脱落しているもの	
	さつま編み込み部分	抜けしているもの/ゆるんでいるもの	
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着し変色しているものと/塗料が付着し硬化したものと	
	変形	形崩れしているもの/著しく縮んでいるもの	
	外皮	切傷・焼損・溶融等によりロープ表面に芯糸が見えているもの	
ストラップ(平織りロープ)	摩擦・擦り切れ	2mm以上あるもの	
	切傷・焼損・溶融	2mm以上あるもの	
	縫い付け部分	ゆるみのあるもの	
	縫糸	切断されているもの/摩擦・擦り切れの激しいもの	
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着し変色したものと/塗料が付着し硬化したものと	
ストラップ(帯ロープ)	ロープコース(シングル)	脱落したものと	
	切傷・焼損・溶融	1mm以上あるもの/芯が露出しているもの	
	摩擦・擦り切れ	1mm以上あるもの/芯が露出しているもの	
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着し変色したものと/塗料が付着し硬化したものと	
	縫糸	縫製部保護カバーが破れて縫糸が摩擦・擦り切れ・切断しているもの	
縫製部保護カバー	変形	形崩れしているもの	
	破れ	縫製部保護カバーが破れているもの	
	爪折れ	縫製部保護カバーの爪部分が破損し、固定できないもの	
	変形	ストラップの巻き込み引き出しのできないもの	
	取付ネジ	取付ネジが脱落しているもの	
巻取器	摩擦・傷	ケース本体ケース裏側のベルト通しが破損しているもの	
	ロック	ストラップを速く引き出してもロック機構が作動しないもの	
	環止め	割れ	破損しているもの
ショックアブソーバ	ベルト	摩擦・擦り切れ・切傷・焼損・溶融	1mm以上あるもの
	ケース	擦り切れ・切傷・焼損・溶融	ケースが破けてベルトが露出しているもの
金具類(フック・バックル)	変形	変形が目視でわかるもの	
	摩擦・傷	バックルの締め具の鋭いもの	
	回転部分	バックルの外れ止め装置及び安全装置の開閉作動の悪いもの	
	さび	フック・バックルのリベットのカシメ部にガタ・変形があるもの	
	パネ	深さ1mm以上の傷があるもの/少しでもき裂があるもの	

